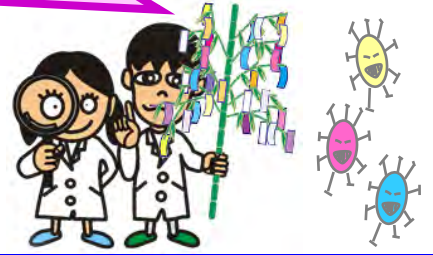


感染症に気をつけよう!

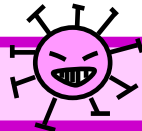
2018年【7月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
A型肝炎*	★ 散発	➡ 横ばい	ウイルスに汚染された食品、性的接触等によって感染します。報告が多い状態です。【'14.4号】
咽頭結膜熱** (プール熱)	★ 流行	➡ 横ばい	例年、7月頃にピークがあり、保育園や学校での集団発生も報告されます。【'18.6号】【チラシ】
RSウイルス 感染症**	★ 散発	➡ やや増加	2017年には、例年より早い流行がみられました。今年も注意する必要があります。【臨時情報】

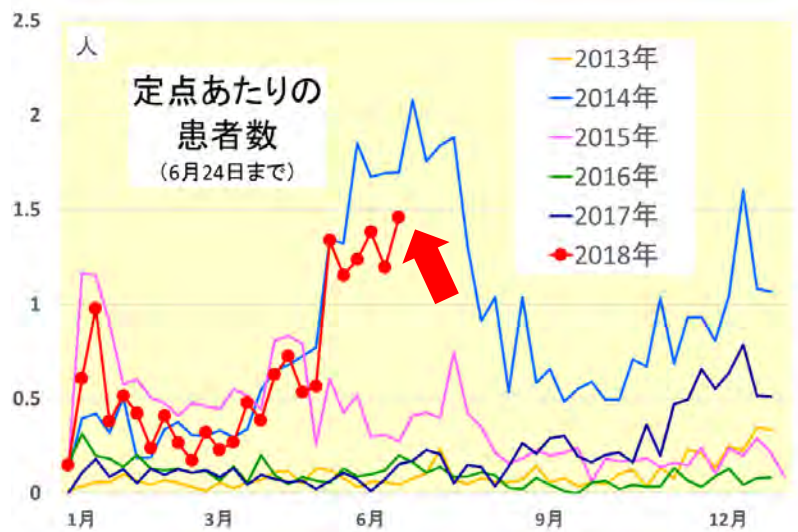
今、気をつけたい感染症



伝染性紅斑 (リンゴ病)

■ **ヒトパルボウイルスB19***が原因で、咳のしぶきや接触によって感染します。

■ 市内では4~5歳を中心に、**2014年**以来の流行となっています。



■ 軽いかぜ症状と、左右のほおにリンゴの様な**赤い発疹****、続いて両方の腕・足にレースの様な赤い発疹が現れます。大人では、しばしば関節痛が出ます。

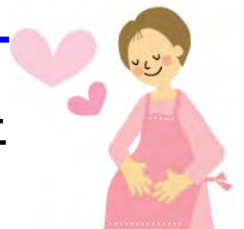
■ 発疹が出てきた時期には、感染力は、ほぼ消えているといわれています。



ほおの発疹 *

■ 妊婦が感染すると、胎児水腫や流産を起こす可能性があります。

■ 万一感染した場合には、医療機関に相談しましょう。



【参考ホームページ】

*: 国立感染症研究所 **: 厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】